



国際芸術祭あいち2025

灰と薔薇のあいまに

Aichi Triennale 2025:

A Time Between Ashes and Roses

国際芸術祭 あいち2025 巡回展示 記録集

灰と薔薇

国際芸術祭 あいち2025 巡回展示 記録集

ホップアップ

- | | |
|----------------|----------------------------------|
| 浅野友理子 | Asano Yuriko |
| プリヤギータ・ディア | Priyageetha Dia |
| 札本彩子 | Fudamoto Ayako |
| カマラ・イブラヒム・イシャグ | Kamala Ibrahim Ishag |
| 加藤泉 | Kato Izumi |
| 是恒さくら | Koretsune Sakura |
| 久保寛子 | Kubo Hiroko |
| 大小島真木 | Ohkojima Maki |
| セルマ&ソフィアン・ウィスイ | Selma & Sofiane Ouissi |
| panpanya | panpanya |
| シルビア・リバス | Silvia Rivas |
| 西條茜 | Saijo Akane |
| 佐々木類 | Sasaki Rui |
| ロバート・ザオ・レンフイ | Robert Zhao Renhui |
| 五十嵐大介(特別出品) | Igarashi Daisuke (guest exhibit) |

国際芸術祭
あいち
2025の
灰と着物の
あいまに

目次

p.03	ごあいさつ
p.04	開催概要
p.06	豊田市
p.14	設楽町
p.22	大府市
p.30	豊川市
p.38	開催風景
p.40	エッセイ
p.42	作品リスト
p.46	来場者アンケート
p.48	パブリシティ記録
p.49	広報印刷物

ごあいさつ

国際芸術祭「あいち2025」巡回展示「ポップ・アップ！」は、愛知芸術文化センター、愛知県陶磁美術館、瀬戸市のまちなかで開催する国際芸術祭「あいち2025」の参加アーティスト等15組の作品が、県内4つのまちを巡る、移動型の展覧会です。

本展覧会では、「あいち2025」のテーマと強く結びつく作品を展示しました。また、アーティストが企画するワークショップや「あいち2025」の学芸スタッフが作品を分かりやすく解説するガイドツアーなども実施することで、「あいち2025」の会場にとどまらず県内に広く現代美術の魅力を発信し、多くの方に気軽に楽しんでいただくことを目指しました。

各会場では、年齢、性別や現代美術への関心の有無にかかわらず、たくさんの方に来場いただき、主催者として大変嬉しく思います。本展覧会が、新しい視点や気づきに繋がったのであれば幸いです。

最後になりましたが、本展覧会の開催にあたりご尽力いただきましたアーティストの皆様をはじめ、豊田市、設楽町、大府市、豊川市並びに関係機関の皆様、多大なご協力を賜りました関係者の皆様に、厚く御礼申し上げます。

2026年3月
国際芸術祭「あいち」組織委員会

開催概要

巡回展示「ポップ・アップ!」

巡回展示「ポップ・アップ!」は、「あいちトリエンナーレ2013」から始まった「モバイル・トリエンナーレ」を前身とする、小さな移動型の展示会です。愛知県内の市町村を移動しながら、国際芸術祭とは異なる作品を中心に展示することで、芸術祭を県内に広く発信することを目的としています。参加アーティストによるワークショップや学芸スタッフによるガイドツアーなども行い、どなたでも気軽に楽しめるプログラムを展開します。

会場 / 会期 / 来場者数	
豊田市	豊田市民芸館 10月24日(金)-26日(日) [3日間] / 645人
設楽町	旧設楽町立田峯小学校 10月31日(金)-11月3日(月・祝) [4日間] / 333人
大府市	大府市歴史民俗資料館、大府市役所 11月7日(金)-9日(日) [3日間] / 1,441人
豊川市	豊川市桜ヶ丘ミュージアム 11月14日(金)-24日(月・振替休日)※11月17日(月)は休館 [10日間] / 917人
計20日間	

参加アーティスト数 | 15組
 作品点数 | 39点
 合計来場者数 | 3,336人(ワークショップ参加者を含む)

主催 |
 国際芸術祭「あいち」組織委員会、豊田市、設楽町、大府市、豊川市

過去の開催地 |
 2013年 豊橋市、知多市、春日井市、東栄町
 2016年 設楽町、大府市、一宮市、安城市
 2019年 設楽町、津島市、小牧市、東海市
 2022年 長久手市、蒲郡市、半田市、西尾市

会場MAP



参加アーティスト

浅野友理子	Asano Yuriko
プリヤギータ・ディア	Priyageetha Dia
札本彩子	Fudamoto Ayako
カマラ・イブラヒム・イシャグ	Kamala Ibrahim Ishag
加藤泉	Kato Izumi
是恒さくら	Koretsune Sakura
久保寛子	Kubo Hiroko
大小島真木	Ohkojima Maki
セルマ&ソフィアン・ウイスイ	Selma & Sofiane Ouissi
panpanya	panpanya
シルビア・リバス	Silvia Rivas
西條茜	Saijo Akane
佐々木類	Sasaki Rui
ロバート・ザオ・レンフイ	Robert Zhao Renhui
五十嵐大介(特別出品)	Igarashi Daisuke(guest exhibit)

国際芸術祭「あいち2025」

「あいち2025」は、国内最大規模の国際芸術祭の一つであり、国内外から62組のアーティストが参加し、愛知芸術文化センターや愛知県陶磁美術館、瀬戸市のまちなかなど県内で広く展開しました。現代美術を基軸とし舞台芸術なども含めた複合型の芸術祭で、ジャンルを横断し、アートの多様性を「あいち」から発信しました。

国際芸術祭「あいち2025」
 テーマ | 灰と薔薇のあいまに A Time Between Ashes and Roses
 芸術監督 | フール・アル・カシミ(Hoor Al Qasimi) (シャルジャ美術財団理事長兼ディレクター、国際ビエンナーレ協会(IBA)会長)
 会期 | 9月13日(土)-11月30日(日) [79日間]
 会場 | 愛知芸術文化センター、愛知県陶磁美術館、瀬戸市のまちなか
 主催 | 国際芸術祭「あいち」組織委員会



豊田市

会期 | 10月24日(金) - 26日(日) [3日間]

時間 | 9:30 - 17:00

会場 | 豊田市民芸館(第3民芸館、茶室勤桜亭、旧井上家住宅西洋館)



加藤泉<無題>2024年
©2024 Izumi Kato

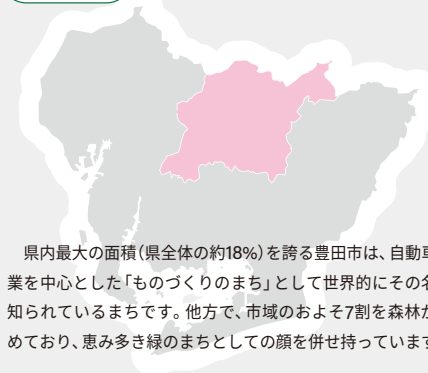
豊田市民芸館



1983年に開館した豊田市民芸館は、県唯一の公立の民芸館です。古陶磁研究家で名古屋民藝協会会長を務めた本多静雄が、東京の日本民藝館の改築に際してその一部を譲り受けて豊田市に寄贈したことが開館の契機となりました。約12,000件の資料を所蔵しており、民藝運動を主導した柳宗悦にゆかりのある木造建築の展示室では、日常の中に素朴な美を見出す民藝の精神を反映した品々を紹介しています。

平戸橋公園の一角に建つ民芸館は、すぐそばを流れる矢作川をはじめ豊かな自然に囲まれており、四季折々の変化を楽しむことができます。また敷地内には、国の登録有形文化財にも登録されている明治期の洋館「旧井上家住宅西洋館」や茶室勤桜亭、市内で発見された猿投古窯を復元した「穴窯」などがあり、見どころの多い施設となっています。

豊田市



県内最大の面積(県全体の約18%)を誇る豊田市は、自動車産業を中心とした「ものづくりのまち」として世界的にその名が知られているまちです。他方で、市域のおよそ7割を森林が占めており、恵み多き緑のまちとしての顔を併せ持っています。

限定和菓子とコーヒー



会場のひとつである第3民芸館では「あいち2025」のテーマ「灰と薔薇のあいまい」をイメージした和菓子とコーヒーのセットを販売しました。来場者からは「和菓子がテーマと合っていて、とても美しく、おいしかったです」「コーヒーを飲みながら鑑賞ができるのがよかった」など、現代アートと併せて楽しむコメントを数多くいただきました。



上. 久保寛子《黄色いスフィンクス(座像)》2024年
下. 展示風景



左. 是恒さくら《原画刺繍『ありふれたくじらジャーナル: 牡鹿半島〜太地浦』》2017年
右. 展示風景



左上、(左から) 愛知県瀬戸《馬の目皿》江戸時代後期、陶器、豊田市民芸館蔵
 札本彩子《モジャス(焼鮭 辛口)》2021年
 右上、札本彩子、展示風景
 右下、(左から) 島根県湯町窯《エッグベーカー》平成、陶器、豊田市民芸館蔵
 島根県湯町窯《ピッチャー》平成、陶器、豊田市民芸館蔵
 札本彩子《モジャス(かぼちゃの煮物)》2023年

シルビア・リバス《迫りくる雪》2014年



ワークショップ

是恒さくら 「みつける!あつめる!民芸館のかたち」

日時 | 10月26日(日) 13:30 - 15:30

場所 | 豊田市民芸館 工房1

対象 | どなたでも

参加者数 | 18人

本ワークショップは、豊田市民芸館を訪れた是恒さくらが、目を惹かれた建物や民芸品に宿る豊かな美しさに着想を得て企画したものです。

当日は、参加者が是恒作成の「かたちマップ」をもとに会場内の様々な民芸品や建物を見て、民芸館の中に様々なかたちを探しました。その後、参加者が見つけた民芸館のかたちの型紙を使って、「あいち2025」の作品にも使われた布や古布を切り貼りしたり刺繍を加えたりして、思い思いのランチョンマットを作りました。



作品ガイドツアー

日時 | 10月25日(土) 11:00 - / 14:00 -

参加者数 | 計50人



設楽町

会期 | 10月31日(金) - 11月3日(月・祝) [4日間]
時間 | 9:00 - 16:00
会場 | 旧設楽町立田峯小学校



展示風景

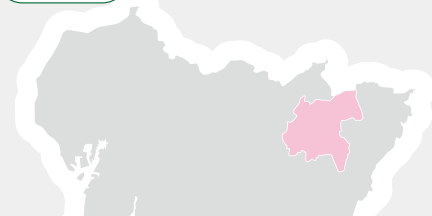
旧設楽町立田峯小学校



旧設楽町立田峯小学校は1873年に田峯学校として創設され、以降150年にわたって地元の子どもの学びの場となってきましたが、2024年3月末に児童数減少のため閉校し、田口小学校と統合されました。平屋建の木造建築である普通教室棟と特別教室棟は1927年に竣工され、2013年には設楽町で初めて、国の登録有形文化財に登録されました。木の温もりが感じられる校内には、歴代の卒業写真や児童たちが作った工作などが当時のまま残されており、ありし日の小学校の様子を思い起こさせます。

校舎は今も保存状態がよく、地域活動の場や地元の組合のオフィスとして活用されています。また周囲には田峯城や田峯観音といった文化史跡が点在し、茶畑が広がる自然豊かな山村の風景を楽しむことができます。

設楽町



名古屋から車でおよそ2時間の場所にある設楽町は、愛知県の東部に位置する、人口約4,000人の自然豊かなまちです。面積の90%以上を森林が占めており、豊かな生態系を育む清流や原生林、そしてまちを囲む美しい山並みが印象的です。また縄文時代の遺跡や戦国時代の山城跡などが残る、歴史が息づくまちでもあります。

キッチンカー出店



設楽町で日本酒を製造する関谷醸造株式会社に出店いただきました。

日本酒をはじめ、酒粕を餌に育った和牛の肉まんや、米麴を練り込んだソフトクリーム、お酒の仕込水で淹れたコーヒーなど、魅力的な逸品を販売。購入された来場者が、笑顔で会場を後にする様子が印象的でした。



左. 是恒さくら、展示風景
右. 佐々木類、展示風景



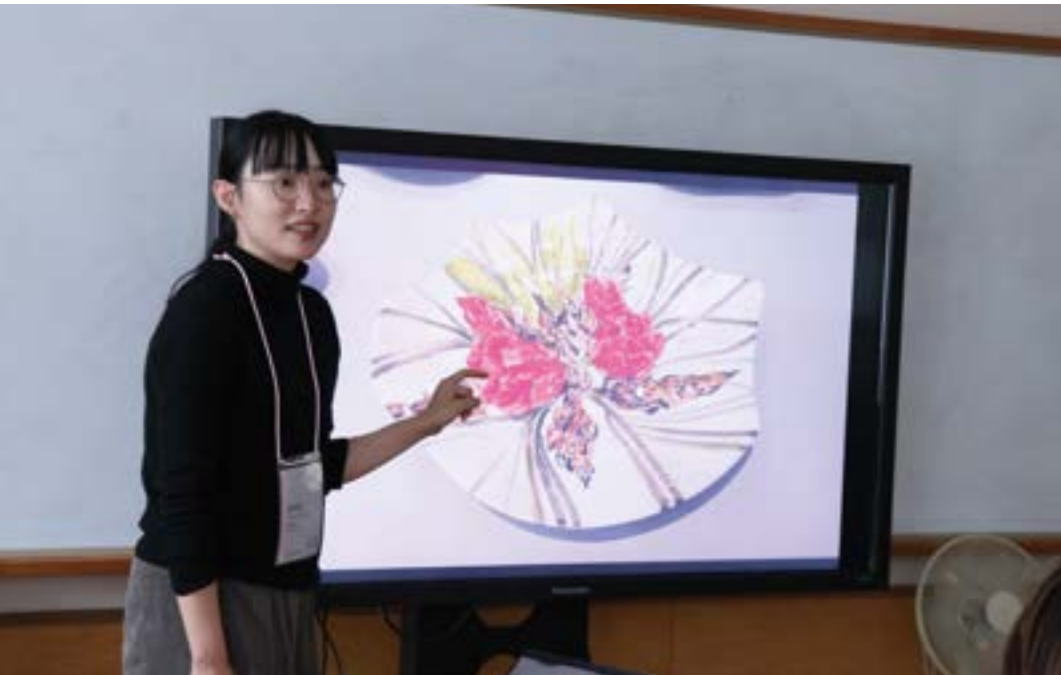
左上. カマラ・イブラヒム・イシャグ、展示風景
左下. 浅野友理子、展示風景
右. 西條茜、展示風景



前頁

左. ロバート・ザオ・レンファイ《そして大いなる兆候が表れた》2021年
 右上. プリヤキータ・ディア《海は青い記憶》2022年
 右下. panpanya《何物》(部分) 2025年

左上. 加藤泉《無題》2024年 ©2024 Izumi Kato
 下. 大小島真木、展示風景
 右上. 久保寛子《黄色いスフィンクス(座像)》2024年



ワークショップ

浅野友理子 「灰で植物を描く!」

日時 | 11月2日(日) 13:30 - 15:30

場所 | 旧設楽町立田峯小学校 図書室

対象 | どなたでも

参加者数 | 29人

本ワークショップでは、日本画に使われる水干絵具や、「あいち2025」のテーマに深く関わる瀬戸の灰で設楽町の植物を描きました。植生が豊かな設楽町で、浅野友理子が地元の方の協力のもと自ら採集したクサギやチョウセンヤマゴボウなどを時に描く対象、時に絵の具として用いました。設楽町ならではの地域の魅力を感じていただけるワークショップとなりました。



作品ガイドツアー

日時 | 11月3日(月・祝) 11:00 - / 14:00 -

参加者数 | 計36人



大府市

会期 | 11月7日(金) - 9日(日) [3日間]

時間 | 大府市歴史民俗資料館 9:00 - 18:00 (最終入場は17:30まで)

大府市役所 平日 7:30 - 21:00 / 土日 8:00 - 21:00

会場 | 大府市歴史民俗資料館、大府市役所



展示風景

大府市歴史民俗資料館



会場のひとつ歴史民俗資料館は、1980年に市制10周年を記念して、大倉公園内に建設された複合施設「大倉会館」の一施設として誕生しました。現在は民俗・考古資料や昭和の暮らしに関する資料の公開・展示を行っています。

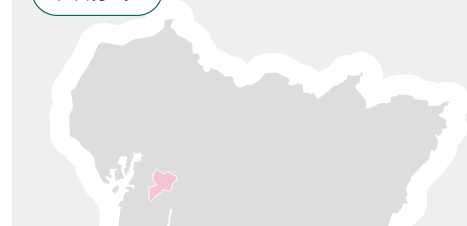
近年、大府市は、「日本のバイオリン王」と呼ばれる鈴木政吉が創業した鈴木バイオリン製造株式会社を2021年に誘致したことを契機に、「音楽のまち・バイオリンの里おおぶ」の実現に向けて歩みを進めており、同館内には、常設展示「大府バイオリン縁起」として、晩年を大府で過ごした政吉の生涯や、かつて大府にあった同社の大府分工場の歴史、政吉に寄せたアインシュタインからの手紙のレプリカ、宮沢賢治が愛用した鈴木バイオリン製チェロの3DCGなどが展示されています。

大府市役所



もうひとつの会場である大府市役所は、2000年9月に現在の庁舎で業務を開始し、JR大府駅から徒歩10分の大府市の中心部にあたる場所に位置しています。人口約9万3千人の市民らを支える行政機能を備えるほか、春には桜、秋には紅葉が美しい、屋外の市民健康広場や、会場となった市民健康ロビーには市広報大使の展示パネル、市の発展を支える製造業の自動車関連製品の展示などがあり、市民の憩いの場やまちの魅力の発信拠点としての顔も持っています。

大府市



大府市は、名古屋・知多・三河を結ぶ交通の要衝としての高い利便性と豊かな自然・産業・住環境の調和がとれたまちです。1970年の市制施行以来、「健康都市」をまちづくりの根幹として市政運営を進め、「住みやすいまち」として市内外から高く評価されています。

連携企画、限定スイーツ



2会場に加え、「あいち2025」の連携企画プログラムである「アートオブリスト2025」(大府市他主催)が隣接する大倉公園で同時期に開催されたほか、「あいち2025」のテーマ「灰と薔薇のあいまいな」をモチーフとした特製ティラミスがJR大府駅のカフェ「KURUTO おおぶ」で販売されるなど、本展覧会開催中は、大府のまちなかがアートであふれました。



左、西條茜、展示風景
 右、プリヤギータ・ディア《海は青い記憶》2022年
 次頁
 上、カマラ・イブラヒム・イシヤグ、展示風景
 下、五十嵐大介、展示風景

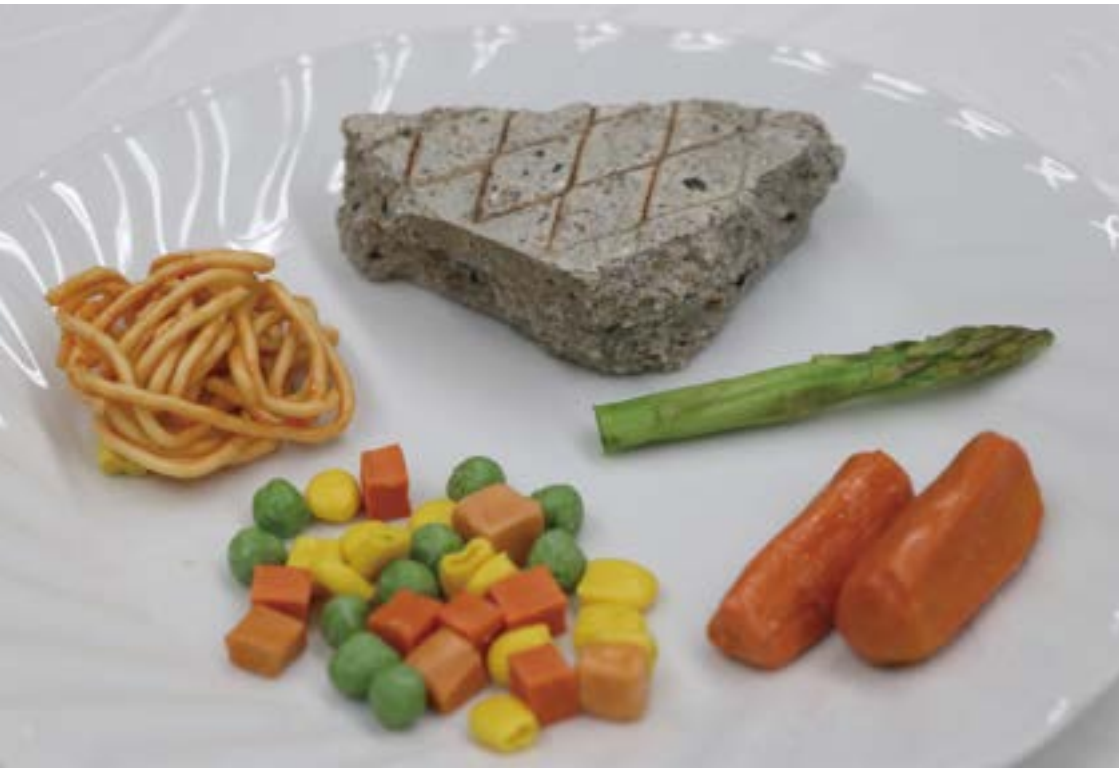




左上. 展示風景
右上. セルマ&ソフィア・ウィスイ、展示風景
右下. 久保寛子《黄色いスフィンクス(座像)》2024年



panpanya《何物》(部分) 2025年



ワークショップ

札本彩子
「ステーキの付け合わせを考えよう！」

日時 | 11月8日(土) 13:30-16:30
場所 | 大府市歴史民俗資料館 2F会議室
対象 | どなたでも
参加者数 | 38人

食をテーマに作品を制作してきた札本彩子は、「あいち2025」でステーキのように見えるコンクリート片を使った作品《ステーキ岩》を出品し、見立てのおもしろさに注目しました。このワークショップでは、そのステーキの付け合わせとなるようなものを粘土で作りました。指サックがにんにくに、ガーデニング用品の支柱がアスパラガスに…。幅広い世代の方に気軽に現代美術を楽しんでいただける、本展覧会らしいワークショップとなりました。



作品ガイドツアー

日時 | 11月8日(土) 11:00 - / 16:00 -
参加者数 | 計32人



豊川市

会期 | 11月14日(金) - 24日(月・振替休日) *11月17日(月)は休館[10日間]
時間 | 9:00 - 17:00 (最終入場は16:30まで)
会場 | 豊川市桜ヶ丘ミュージアム



展示風景

豊川市桜ヶ丘ミュージアム



豊川市桜ヶ丘ミュージアムは、1983年に豊川地域文化広場内に開館した「ふるさと資料館」と「ふれあいホール」を前身として1994年にオープンした文化施設です。市内の歴史に関する資料や収蔵品を展示する常設展示や、多岐にわたる美術を取り上げる企画展が開催されているほか、併設されている市民ギャラリーは、市の企画展や市民の発表の場として活用されています。2013年から2015年にかけて行われた改修では、市民ギャラリーが増設され、実習室・茶室などが新たに設置されました。実習室は絵画や陶芸などの講座やグループの活動に、茶室「心々庵」は市民呈茶・講座などに利用されています。「心々庵」は2023年にリニューアルオープンし、新たに立礼席が整備されました。

豊川市

豊川市は、南に三河湾、北に本宮山麓、東に豊川が流れ、海と山と川が揃った、自然に恵まれたまちです。また、江戸時代に稲荷信仰のもとで広く知られるようになった豊川稲荷は、日本三大稲荷のひとつとされています。全国屈指のバラの産地でもあり、日本一の出荷量を誇っています。



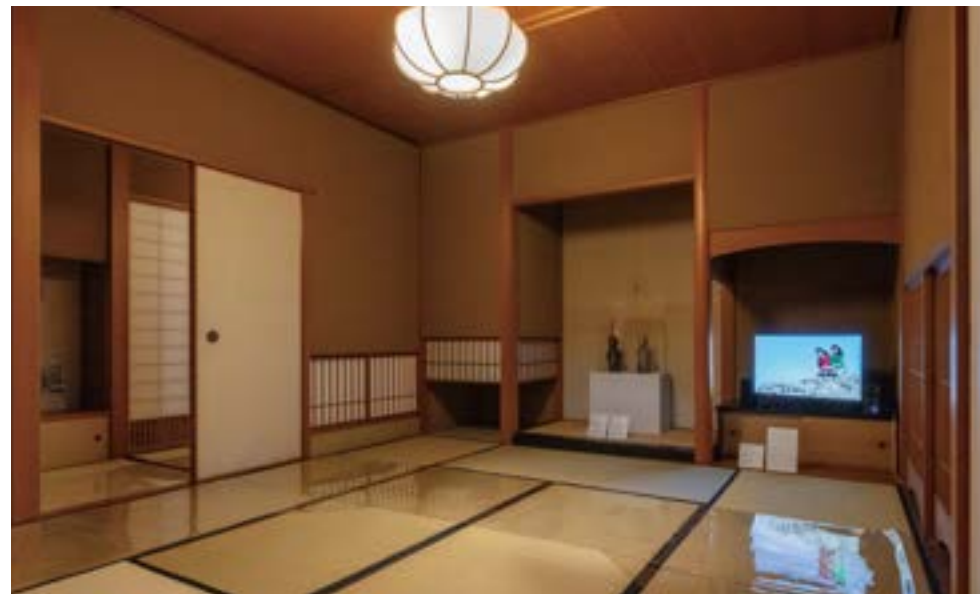
バラのプレゼント



「あいち2025」のテーマ「灰と薔薇のあいまに」にちなんで、豊川市名産のバラを期間限定で来場者に配付し、喜んでいただきました。



左. 久保寛子《黄色いスフィンクス(座像)》2024年
右. シルビア・リバス《迫りくる音》2014年



左上. セルマ&ソフィア・ウイスイ、展示風景
左下. プリヤゲータ・ディア《海は青い記憶》2022年
右. 札本彩子、展示風景



佐々木類、展示風景



左上、ロバート・ザオ・レンフイ《そして大いなる兆候が表れた》2021年
 下、展示風景
 右上、浅野友理子、展示風景



ワークショップ

西條茜 「オリジナル埴輪を作ろう!」

日時 | 11月16日(日) 13:30 - 15:30

場所 | 豊川市桜ヶ丘ミュージアム 第1実習室

対象 | どなたでも

参加者数 | 14人

本ワークショップは、豊川市で出土した、相撲の力士の形をした埴輪をもとに、参加者が自分だけのオリジナル埴輪を作るものです。

やきものを手がける西條茜による作品制作やその技法に関するトークや、同時開催の特別展「埴輪大相撲 豊川場所」に関する学芸員の説明を受けた後、焼かなくても素焼きの質感が出る粘土を使って本物そっくりの埴輪を作りました。最後に全ての埴輪を並べて感想を述べあい、参加者同士で交流する時間を作りました。



作品ガイドツアー

日時 | 11月23日(日) 11:00 - / 14:00 -

参加者数 | 計28人



開催風景



が渡っていく様子を労働者が天然ゴムのプランテーションのためにマレー半島へと移住させられた歴史になぞらえて、アニメーションという形で表現した(p.24)。是恒さくらは、鯨をテーマにかつて捕鯨が盛んだった土地を訪れて、そこの人々から記憶や思い出を引き出し、聞き取った内容をテキスト(文字)とテキスタイル(刺繍)で紡いできた(p.9)。どちらもラテン語の「織る(texere)」に由来する表現方法であり、大府会場ではテキストに寄せて史料室に、豊田会場ではテキスタイルに寄せて機織り機の近くに展示した。

空間に合わせた展示という点では、瀬戸のまちなかに入り込んでいくような芸術祭本展の展示方法に倣った、短編漫画のワンシーンを各会場の既存展示物や備品に溶け込ませた、panpanyaの展示も挙げられる(p.27)。

このように、多彩なポップ・アップ!の出品作品は、小規模ながらも見応えのあるラインナップであった。早く出品を了承してくれたアーティストには改めて感謝したい。

最後になるが、短期間の展示を毎週異なる場所で開催するのは、私たち主催者にとってなかなかハードな企画である。それでもなお、アーティストにも負担をかけながら、かなり強引に芸術祭の期間中にポップ・アップ!を開催するのは、ひとえに1人でも多くの方に実際に会場を訪れて、アートに慣れ親しんでいただきたいという切な願いからである。最近ではPCやスマホの画面でも簡単に作品の写真を見ることができているが、作品のスケールや質感、そして空間や作品同士との共鳴は、やはり実際に作品と向き合わなければわからない。会場を訪れ、その空間の中に自身を置くことで、生き生きとした立体的な鑑賞体験が得られると信じている。

目するのが、シンガポール出身のロバート・ザオ・レンファイだ。気候変動により本来冬のシンガポールでは見られなかった鳥を観測したことを映像作品にしており、こうした身近な兆候から大きなSOSやサインに気づくよう我々を促している(p.18)。対して、大小真鳥木は自然と人間がもつれ絡まり合いながら循環していく世界観を表現しており、色とりどりの美しいドローイングには、頭部に花をつけた不思議な動物たちが自然と一体化しながら死と再生を繰り返していく物語が描かれている(p.19)。

人間と動物のあいまをいくようないきものが題材となっている作品もあった。加藤泉は、胎児や精霊といった無垢な存在を連想させる独特のいきものを平面、立体問わずさまざまな素材に描いており(p.6)、久保寛子は古代の神話に登場する人間の頭部にライオンの胴体がついた空想上のいきものであるスフィンクスを鉄骨と工業用ネットなどの建築資材で表現した(p.32)。いずれも神聖な存在によってその場が守られているかのように、生命の気配が感じられる空間へと変貌していた。

日常の中でつい見過ごされがちな繋がりや瞬間に光を当てようとするのは、札本彩子やシルビア・リバスだ。札本は身の回りのものがふとした瞬間に食べ物に見えるという自身の経験を踏まえて、食べ物に見えた石ころや木やスポンジなどと、それに似せた食品造形を並べた<モシヤス>シリーズを制作してきた(p.33)。リバスは、ほとんど動きのない静物画のような映像と対照的に不快感を催すハエの羽音を組み合わせた作品を通じて、ハエに象徴される脅威が迫る一瞬を、鑑賞者の経験に基づく連想によって感じてもらおうよう試みている(p.32)。

西條茜とセルマ&ソフィアン・ウィスイは、ともに身体性に着目した作品を制作してきた。西條は、人体器官を想起させる孔がついていたり、体内を連想させるような表面のとろりとした艶やかな質感の有機的な形のやきものを制作し、近年では内部の空気を循環させるように孔に息を吹き込むパフォーマンスも行っている(p.17)。ウィスイ兄妹は、チュニジア北西部の小さな村に伝わるやきものについて、それを作る女性陶工たちの身振りに着目し、そのしぐさを技術のみならず、集団や個人の記憶、社会における彼女たちのアイデンティティも引き継ぐ身体的記憶と捉え、やきものを作る所作をモチーフにしたパフォーマンスを映像に収めた(p.26)。

身体に対して、記憶に着目した作品もあった。佐々木類は、土地や人々の暮らしに結びついた植物をガラス板に挟んで焼くことによって、植物に宿る人々の記憶をガラスという半永久的な耐久性を持つ素材の中に留めようとしてきた(p.34)。プリヤギータ・ディアは、流動的な海を人々の個人的・集団的記憶が集まり伝達される場とみなし、記憶の海を1人の女性

今回の展示では会場の備品をそのまま展示台として使用したり、元々ある展示物に作品を溶け込ませるなどの展示構成を試みた。所蔵品とのコラボレーション(p.10)、美しい洋館から鳴り響く大音量のハエの羽音(p.11)、児童用の学習机に鎮座する不思議ないきもの(p.19)などはポップ・アップ!ならではの展示であったと思っている。現代アートは理解しにくかったり戸惑いを感じてしまうと言われることがあるが、確かに、作品鑑賞にあまり馴染みがない人にとって美術館やギャラリーのような場所は、作品と正面から向き合うことを強いられるようで、つい身構えてしまうかもしれない。しかし、特徴のある空間で作品と対峙することによって、作品が空間の見え方を変えてしまうような存在感を持っていることがよりストレートに伝わってくるだろう。他方で、美術館やギャラリーのように作品を展示するために作られたホワイトキューブで普段からアートに慣れ親しんでいる人にとっても、会場のノイズは新鮮な印象を与える。同じ作品でも、設置される空間が違えば見え方も異なる。実際、全ての会場を同じ作品が巡るにもかかわらず、会場ごとの展示構成や作品の見え方の違いを楽しんでくださるコアな方もいたと聞く。

今回の出品作品はこうした空間のノイズとも呼応して、会場ごとに見え方を変えながら強い存在感を放っていた。単純にはあるが、ここからは個別の作品に触れていきたい。今回のポップ・アップ!では独自の展示テーマを設けていない。すでにそれぞれの作品が「灰と薔薇のあいまに」という芸術祭全体のテーマを雄弁に語っているので、わざわざその多様性を損なうようなフレーズを新たに設定することは蛇足に思われたからだ。作品が芸術祭全体のテーマに緩やかに結びついているからこそ、それぞれに問題意識の異なるアーティストの作品同士は、展示会場のなかで響き合うのである。

隣同士や対の形で展示していたカマラ・イブラヒム・イシャグの絵画2点と特別出品の五十嵐大介による芸術祭キービジュアルの原画2点(p.25)は、共に芸術祭のテーマ「灰と薔薇のあいまに」からインスピレーションを得て描かれたものである。同じ題材でも当然ながら両者のアウトプットは全く異なり、高い画力と繊細な筆致によるイラストレーションと、スーダンの自然や信仰に基づく絵画は、それぞれの世界観で灰の持つ暗い側面とその中で見出される希望が表現されていた。

今回の芸術祭のテーマには、人間が自然と共存していくための道筋を探ろうとする思いが込められている。そのため、植物や動物を題材にしているアーティストも取り上げた。浅野友理子が注目したのは、人間と植物との関わりだ。木肌が感じられる木版画で浅野が彫り出すのは、葉草として人々の生活に寄り添ってきた植物であり、画面には、じんわりと人々の不調を癒すかのような温もりが感じられる(p.17)。同じように、人間と動物との関係に注

ノイズを味わう

芹澤なみき

国際芸術祭「あいち」組織委員会プロジェクトマネージャー

国際芸術祭「あいち」では、2013年から会期中に県内市町村を巡回する展示を行ってきた。当初は移動型の芸術祭という意味を込めて「モバイル・トリエンナーレ」という名称がつけられていたが、前回の2022年から現在の名称である「ポップ・アップ!」に変わった。英語のpop-upには、唐突に現れてはすぐに消える、という意味があり、週末ごとに会場を変える刹那的な企画にはよりふさわしいタイトルである(ちなみに語尾に「!」をつけるのは、前回の芸術監督を務めた片岡真実による発案で、俄然リズム感が出てくる)。

芸術祭に連動してこうした巡業を行う背景には、現代アートに興味はあるけれども芸術祭には足を運んだことがない、あるいは普段展覧会を見に行くことがないという人に対して、気軽にアートに親しんでもらいたいという意図がある。そのため、芸術祭の会場とは異なる複数の市町で、芸術祭と比べてコンパクトな規模で、無料の展覧会を開催することによって、距離的、スケールの、金銭的ハードルを下げている。その一方で、ポップ・アップ!の出品作品はそのほとんどが芸術祭本展とは異なる作品であるため、すでに芸術祭を見た人にとって同じアーティストの別の作品を知る機会にもなっている。このように、普段アートにあまり馴染みのない人と、アート好きの人という大きく異なる2タイプのターゲットを想定しているわけだが、その双方の人に楽しんでもらうための鍵となるのが、各会場の内装や備品、すなわち展示空間の“ノイズ”である。雑音を意味するノイズという言葉にはネガティブなイメージがつきまとうが、しかしながらこのノイズこそ、物事を多角的に捉える余地になりえ、思わぬ発見や新たな視点の獲得につながる可能性を秘めているのではないか。美術館で開催されるような通常の展覧会では、作品とは無関係な要素は鑑賞を邪魔するものとして排除されるが、ポップ・アップ!では会場の空間それぞれの個性を生かした展示こそ醍醐味であると考え、むしろこのノイズを積極的に取り入れた。

ポップ・アップ!の会場は、普段は展示を目的としない施設や、展示施設であっても普段は現代アートとはゆかりのうすい場所を意識的に選んでいる。今回も小学校や茶室、会議室などを会場としたが、そうした場所で見える現代アートの作品は、空間とは関係のない、唐突なものとして映るだろう。しかしこのように鑑賞者にとっては馴染みのある空間でこそ、作品が置かれた時の違和感によって作品に意識が向きやすくなる。この空間と作品の組み合わせから生まれる違和感が現代アートの作品理解へと導くトリガーになりえると考え、

作品リスト

*アーティスト名のアルファベット順

浅野友理子 | Asano Yuriko

《薬草の木版画 トチノミ》
2020年
木版画(墨、手彩色)
作家蔵
Woodblock Print of Medicinal Herbs, Horse Chestnut
2020
Woodblock print (ink, colored)
Collection of the artist

《薬草の木版画 オトギリソウ》
2020年
木版画(墨、手彩色)
作家蔵
Woodblock Print of Medicinal Herbs, St. John’s Wort
2020
Woodblock print (ink, colored)
Collection of the artist

《薬草の木版画 カキドオシ》
2020年
木版画(墨、手彩色)
作家蔵
Woodblock Print of Medicinal Herbs, Ground Ivy
2020
Woodblock print (ink, colored)
Collection of the artist

《薬草の木版画 ドクダミ》
2020年
木版画(墨、手彩色)
作家蔵
Woodblock Print of Medicinal Herbs, Fish Mint
2020
Woodblock print (ink, colored)
Collection of the artist

《薬草の木版画 ツチアケビ》
2020年
木版画(墨、手彩色)
作家蔵
Woodblock Print of Medicinal Herbs, Cyrtosia Septentrionalis
2020
Woodblock print (ink, colored)
Collection of the artist

《薬草の木版画 フシニンジン》
2020年
木版画(墨、手彩色)
作家蔵
Woodblock Print of Medicinal Herbs, Japanese Ginseng
2020
Woodblock print (ink, colored)
Collection of the artist

《薬草の木版画 ホオノキ》
2020年
木版画(墨、手彩色)
作家蔵
Woodblock Print of Medicinal Herbs, Japanese Cucumber Tree
2020
Woodblock print (ink, colored)
Collection of the artist

《薬草の木版画 マムシグサ》
2020年
木版画(墨、手彩色)
作家蔵
Woodblock Print of Medicinal Herbs, Jack in the Pulpit
2020
Woodblock print (ink, colored)
Collection of the artist

《薬草の木版画 ヤマユリ》
2020年
木版画(墨、手彩色)
作家蔵
Woodblock Print of Medicinal Herbs, Gold-Banded Lily
2020
Woodblock print (ink, colored)
Collection of the artist

プリヤギータ・ディア | Priyageetha Dia

《海は青い記憶》
2022年
シングルチャンネル・ビデオ(10分35秒)
作家蔵
The Sea is a Blue Memory
2022
Single-channel video (10min. 35sec.)
Collection of the artist

札本彩子 | Fudamoto Ayako

《モンヤス(豆大福)》
2020年
コンクリート片／アクリル、樹脂粘土
作家蔵
Moshas (Mame-Daifuku)
2020
Concrete piece, acrylic on polymer clay
Collection of the artist

《モンヤス(アスパラ)》
2022年
折れたガーデニング用品／アクリル、樹脂粘土
作家蔵
Moshas (Asparagus)
2022
Broken gardening tool, acrylic on polymer clay
Collection of the artist

《モンヤス(かぼちゃの煮物)》
2023年
アトリエで使用していたスポンジ／アクリル、樹脂粘土
作家蔵
Moshas (Simmered Pumpkin)
2023
Sponge used at atelier, acrylic on polymer clay
Collection of the artist

《モンヤス(焼鮭 辛口)》
2021年
愛宕山の石／アクリル、樹脂粘土

作家蔵
Moshas (Grilled Salmon, Heavily-Salted)
2021
Stone of Mt. Atago, acrylic on polymer clay
Collection of the artist

《モンヤス(がんも)》
2023年
海辺で拾った石／アクリル、樹脂粘土
作家蔵
Moshas (Tofu Fritter)
2023
Stone picked up at the beach, acrylic on polymer clay
Collection of the artist

《モンヤス(鮎菓子)》
2024年
流木／アクリル、樹脂粘土
作家蔵
Moshas (Sweetfish Wagashi)
2024
Driftwood, acrylic on polymer clay
Collection of the artist

カマラ・イブラヒム・イシャグ | Kamala Ibrahim Ishag

《灰と薔薇》
2024年
アクリル、キャンバス
作家蔵
Ashes and Roses
2024
Acrylic on canvas
Collection of the artist

《灰と人々》
2024年
アクリル、キャンバス
作家蔵
Ashes and People
2024
Acrylic on canvas
Collection of the artist

加藤泉 | Kato Izumi

《無題》
2024年
アルミニウム、ウレタンペイント
作家蔵
Untitled
2024
Urethane paint on aluminum
Collection of the artist

是恒さくら | Koretsune Sakura

《原画刺繍『ありふれたくじらジャーナル:牡鹿半島〜太地浦』》
2017年
糸
作家蔵
Embroidered Stories: Journal of Ordinary Whales, Oshika Peninsula to Taijiura
2017
Threads
Collection of the artist

『ありふれたくじらジャーナル:牡鹿半島〜太地浦』
2017年
冊子、16ページ
作家蔵
Journal of Ordinary Whales: Oshika Peninsula to Taijiura
2017
Booklet, 16 pages
Collection of the artist

久保寛子 | Kubo Hiroko

《黄色いスフィンクス(座像)》
2024年
鉄、防風ネット
作家蔵
Yellow Sphinx (Sitting)
2024
Steel, windbreak net
Collection of the artist

大小島真木 | Ohkojima Maki

《『ウオールド』原画「木が歌っているよ」》
2009年
鉛筆・色鉛筆・水彩・アクリル、紙
作家蔵
Artwork for Uold “Listen—the tree sings.”
2009
Pencil, colored pencil, watercolor and acrylic on paper
Collection of the artist

《『ウオールド』原画「ぼくたちは、再び生まれたんだ」》
2009年
鉛筆・色鉛筆・水彩・アクリル、紙
作家蔵
Artwork for Uold “We’re born again—”
2009
Pencil, colored pencil, watercolor and acrylic on paper
Collection of the artist

《『ウオールド』原画「森がぼくらを呼ぶ」》
2009年
鉛筆・色鉛筆・水彩・アクリル、紙
作家蔵
Artwork for Uold “The forest is calling to us.”
2009
Pencil, colored pencil, watercolor and acrylic on paper
Collection of the artist

《『ウオールド』原画「言葉は壁から飛び出して、木をつくる」》
2009年
鉛筆・色鉛筆・水彩・アクリル、紙
作家蔵
Artwork for Uold “Words leap from walls, Transforming into trees.”
2009
Pencil, colored pencil, watercolor and acrylic on paper
Collection of the artist

セルマ&ソフィアン・ウイスィ | Selma & Sofiane Ouissi

《ラール・リュ陶製人形コレクション ―― ラアルーサ・アート・コレクティブによるコミュニティスペースのための制作(2011–2013) SN6》

2011–2013年

陶(現地の天然粘土)、天然顔料

ラール・リュ・アソシエーション蔵

L'Art Rue Ceramic Dolls Collection, Created by Laaroussa Artistic Collective for Community Spaces, 2011–2013, SN6

2011–2013

Ceramic (locally sourced clay, natural pigments)

Collection of Association L'Art Rue

《ラール・リュ陶製人形コレクション ―― ラアルーサ・アート・コレクティブによるコミュニティスペースのための制作(2011–2013) SN10》

2011–2013年

陶(現地の天然粘土)、天然顔料

ラール・リュ・アソシエーション蔵

L'Art Rue Ceramic Dolls Collection, Created by Laaroussa Artistic Collective for Community Spaces, 2011–2013, SN10

2011–2013

Ceramic (locally sourced clay, natural pigments)

Collection of Association L'Art Rue

《ジェスチャーの詩学》

2011年

シングルチャンネル・ビデオ(11分13秒)

作家蔵

The Poetic of Gesture

2011

Single-channel video (11min.13sec.)

Collection of the artist

panpanya | panpanya

《何物》

2025年

複製版

作家蔵

Some-ware

2025

Reproduction

Collection of the artist

シルビア・リバス | Silvia Rivas

《迫りくる害》

2014年

2チャンネル・ビデオ(3分12秒)

作家蔵

Imminent Harm

2014

Two-channel video (3min.12sec.)

Collection of the artist

西條茜 | Saijo Akane

《二つの袖口》

2025年

陶

作家蔵

Two Cuffs

2025

Ceramic

Collection of the artist

《肉体の物理》

2025年

陶

個人蔵

Physics of the Body

2025

Ceramic

Private Collection

佐々木類 | Sasaki Rui

《植物の記憶／忘れじの庭 ――初春の寒空の見晴らしの良い庭にて――》

2021年

ガラス、植物

作家蔵

Unforgettable Gardens-In the garden with a view under the cold weather of early spring-

2021

Glass, plant

Collection of the artist

《植物の記憶／忘れじの庭 ――猛暑日の草が生い茂る影にて――》

2022年

ガラス、植物

作家蔵

Unforgettable Gardens-In the shade of overgrown grass on a heat day-

2022

Glass, plant

Collection of the artist

《忘れじの庭／記憶をめくる_30》

2024年

ガラス、植物

作家蔵

Unforgettable Gardens/Reading through recollections_30

2024

Glass, plant

Collection of the artist

ロバート・ザオ・レンファイ | Robert Zhao Renhui

《そして大いなる兆候が表れた》

2021年

シングルチャンネル・ビデオ(4分52秒)

作家蔵

And a Great Sign Appeared

2021

Single-channel video (4min.52sec.)

Collection of the artist

Courtesy of the artist and ShanghART Gallery

五十嵐大介 | Igarashi Daisuke

《灰と薔薇のあいまに》(国際芸術祭「あいち2025」のためのキービジュアル原画)

2024年

インク・水彩、紙

作家蔵

A Time Between Ashes and Roses (Key Visual Artwork for Aichi Triennale 2025)

2024

Ink and watercolor on paper

Collection of the artist

《今も灰は降り続き 薔薇の周りを幽霊たちが舞う》(国際芸術祭「あいち2025」のためのキービジュアル原画)

2025年

インク・水彩、紙

作家蔵

Ashes Still Continue to Fall, Ghosts Dance around the Roses (Key Visual Artwork for Aichi Triennale 2025)

2025

Ink and watercolor on paper

Collection of the artist

来場者アンケート

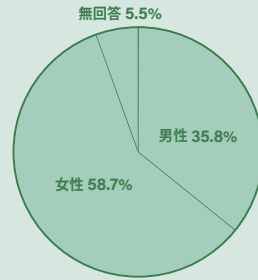
来場者数3,336人のうち、1,403人の方々にアンケートにご協力いただきました。展示内容に関しては、「とても良かった」と「良かった」を合わせておよそ9割となり、多くの方から高い評価をいただきました。また、その理由として、「地方都市の文化施設の設備をうまく使って、とても見ごたえのある展示になっていました。」「ポップ・アップ！ならではのここで見られない展示と作品に出会えて素晴らしい機会だと思います。」「各アーティストの良い部分、特徴を存分に出している展示になっていた！！」など、作品と会場を生かした展示を評価する回答を多くいただきました。また、「小さな子ども連れでは美術館にいきづらいですが本展会場に行こうと思いつつなかなか足を運ばなかったのここを見てやっぱり行こうと思った。」「愛知県のなかでも離れた設楽町での展示にとっても感謝します。名古屋にも足を運びたいと思いました。」といったコメントをいただき、国際芸術祭「あいち」に関心をもってもらい「あいち2025」会場以外の市町村で現代美術の振興を図るという本展覧会の目的を果たすことができました。

回答数 / 1,403人

回答者の属性

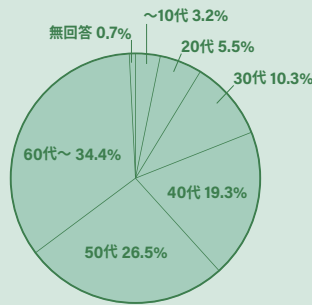
▶ 性別

男性	502人	35.8%
女性	824人	58.7%
無回答	77人	5.5%
計	1,403人	100.0%



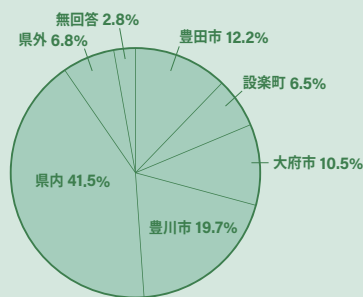
▶ 年代

～10代	45人	3.2%
20代	77人	5.5%
30代	145人	10.3%
40代	271人	19.3%
50代	372人	26.5%
60代～	483人	34.4%
無回答	10人	0.7%
計	1,403人	100.0%



▶ 住まい

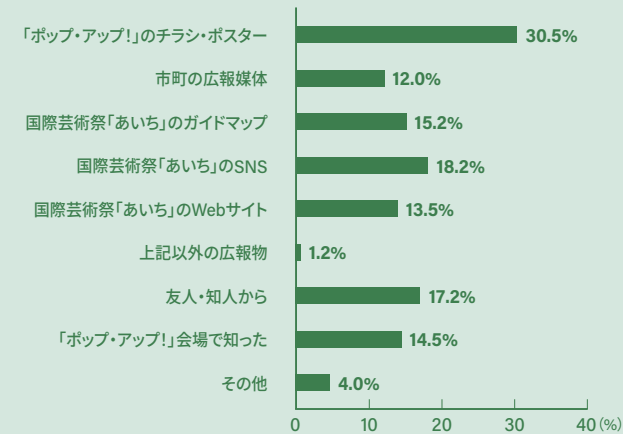
豊田市	171人	12.2%
設楽町	92人	6.5%
大府市	147人	10.5%
豊川市	276人	19.7%
県内(上記の開催市町以外)	582人	41.5%
県外	96人	6.8%
無回答	39人	2.8%
計	1,403人	100.0%



来場理由

▶ 「ポップ・アップ！」をどのようにお知りになりましたか？(複数回答可)

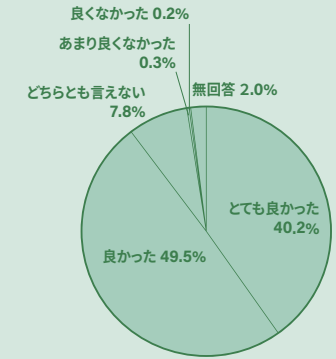
「ポップ・アップ！」のチラシ・ポスター	428人	30.5%
市町の広報媒体	168人	12.0%
国際芸術祭「あいち」のガイドマップ	213人	15.2%
国際芸術祭「あいち」のSNS	256人	18.2%
国際芸術祭「あいち」のWebサイト	190人	13.5%
上記以外の広報物	17人	1.2%
友人・知人から	242人	17.2%
「ポップ・アップ！」会場で知った	203人	14.5%
その他	56人	4.0%
計	1,773人	—



展示に対する評価

▶ 展示の内容はいかがでしたか？

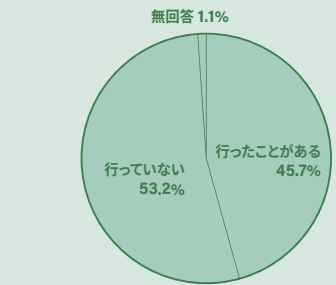
とても良かった	564人	40.2%
良かった	694人	49.5%
どちらとも言えない	109人	7.8%
あまり良くなかった	4人	0.3%
良くなかった	3人	0.2%
無回答	29人	2.0%
計	1,403人	100.0%



国際芸術祭「あいち」への来場

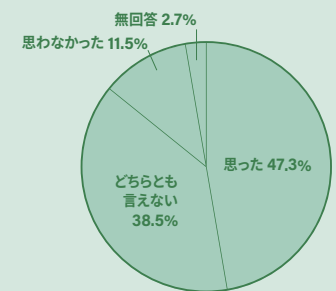
▶ 国際芸術祭「あいち2025」の本展会場(愛知芸術文化センター、愛知県陶磁美術館、瀬戸市)に行ったことはありますか？

行ったことがある	642人	45.7%
行っていない	746人	53.2%
無回答	15人	1.1%
計	1,403人	100.0%



▶ (上記で「行っていない」と回答された方にお伺いします) 本日の展示を見て、本展会場に行きたいと思われましたか？

思った	353人	47.3%
どちらとも言えない	287人	38.5%
思わなかった	86人	11.5%
無回答	20人	2.7%
計	746人	100.0%



パブリシティ記録

新聞 |

- 2025年11月8日(土) 中日新聞知多版 「大府の空間生かし巡回展」
- 2025年11月8日(土) 読売新聞地域版 「多彩な現代アート 身近に」
- 2025年11月16日(日) 東愛知新聞 「会場に広がる個性と世界観」

テレビ |

- 2025年11月8日(土) 知多メディアネットワーク「mediasエリアニュース」

Web |

- 2025年11月11日(火) 地方創生メディア Mediall「豊田市民芸館で感じる「国際芸術祭「あいち2025」」まちを巡るアートの旅【前編】【後編】」

ラジオ |

- 2025年10月9日(木) ラジオサンキュー「せとまちradio！」
- 2025年10月22日(水) FM AICHI「MORNING BREEZE」

開催市町広報 |

- 豊田市
 - 広報紙 広報とよた2025年10月号
 - 行政広報番組 豊田市政番組「とよたNOW」
- 設楽町
 - 広報紙 広報したら2025年10月号
- 大府市
 - 広報紙 広報おおぶ2025年4月号・10月号・12月号
 - FM AICHI「DAYDREAM MAGIC」 2025年10月21日(火)
- 豊川市
 - 広報紙 広報とよかわ2025年11月号

愛知県広報 |

- 2025年10月5日(日) 広報あいち10月号(中日新聞・朝日新聞・読売新聞・毎日新聞に掲載)
- 2025年10月9日(木) 東海テレビ「村上佳菜子の週刊愛ちっち」
- 2025年10月14日(火) ラジオサンキュー「情報発信!愛知県」
- 2025年11月1日(土) FM AICHI「AICHI SATURDAY TOPICS」
- 2025年11月2日(日) 広報あいち11月号(中日新聞・朝日新聞・読売新聞・毎日新聞に掲載)

プロモーションビデオ |

- 2025年11月22日(土) 国際芸術祭「あいち2025」公式ダイジェストビデオ公開
- 2026年1月27日(火) 巡回展示「ポップ・アップ!」ダイジェストビデオ公開

広報印刷物



左. 開催ポスター(A2)

右. 開催チラシ(A3変形二つ折り4頁)

国際芸術祭「あいち2025」
巡回展示「ポップ・アップ!」

Aichi Triennale 2025
Traveling Exhibition “Pop Up!”

展覧会

学芸 | 芹澤なみき(国際芸術祭「あいち」組織委員会プロジェクトマネージャー / 愛知県美術館学芸員)
大野高輝(国際芸術祭「あいち」組織委員会コーディネーター)

事務 | 落合寛(国際芸術祭「あいち」組織委員会スタッフ)

広報 | 樋口大樹(国際芸術祭「あいち」組織委員会スタッフ)

謝辞 | 株式会社タケナカ(シンユニティグループ)(機材協力)、竹下工、したらワークス共同組合

広報印刷物デザイン | 前畑裕司

助成 | 令和7年度 文化庁 文化芸術創造拠点形成事業、一般財団法人地域創造、(公社)企業メセナ協議会

記録集

執筆、編集 | 落合寛、芹澤なみき、樋口大樹

撮影 | 城戸保 p.20、21、26(右下)、28、29、38(下)、39は樋口大樹による撮影 *p.07、13(右上、左下)、15、23、31、37(下)、39(左上)を除く

デザイン | 前畑裕司

発行

国際芸術祭「あいち」組織委員会



国際芸術祭あいち2025
灰と薔薇のあいまに
Aichi Triennale 2025:
A Time Between Ashes and Roses

